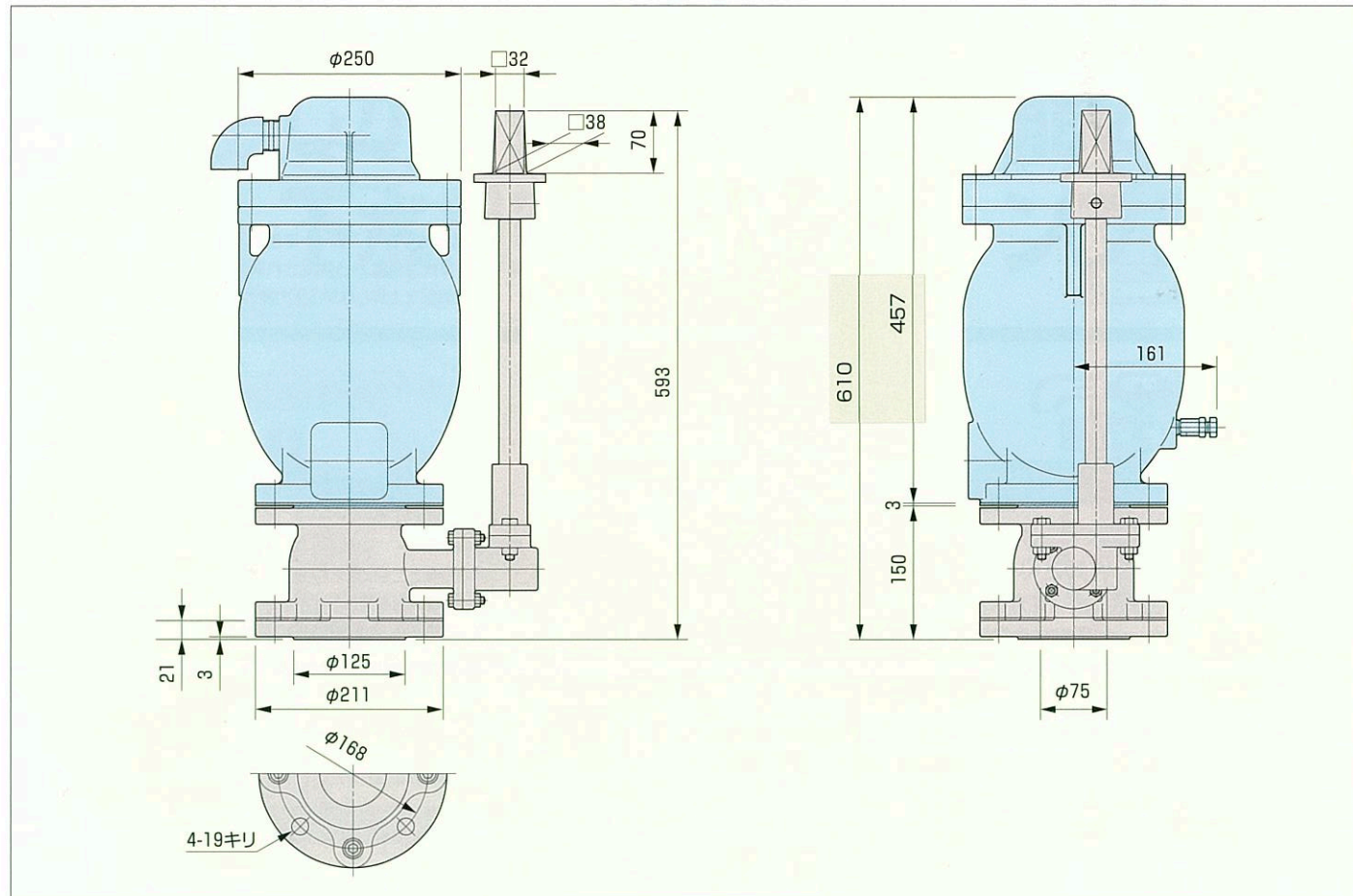


寸法図



オプション

- 消音器 (騒音を低減するもので完全に音を消すものではありません)
- 臭気放出ホース (臭気を遠方に放出するものです)
- 脱臭装置 (臭気を低減するもので完全に臭いを取るものではありません)

クリーンブローは、排気能力が特に大きくできていますから短時間排気が可能です。
現場により排気音が気になるときや、高圧(約0.4MPa程度)の場合は専用の消音器を
ご使用ください。また専用の臭気放出ホース、脱臭装置などもとりそろえております。

お願い

空気弁の機能を維持するためには、保守・点検・お手入れが必要です。
下水には様々な異物が含まれており、これらの異物が多量に空気弁内に
侵入した場合には、空気弁の作動に支障をきたし、漏水を起こす
ことがあります。

また、長期間の使用により下水中の浮遊物が弁箱やフロートに付着し、
それが塊状態になるとフロートの動きも悪くなりますので、定期的に
内部の点検・清掃を行ってください。
詳しくは「取扱説明書」をご参照ください。

安全にご使用いただくために、取扱説明書をよくお読みください。

※このカタログの仕様・寸法等は、予告なく変更することがあります。

株式会社クボタ

パイプシステム事業部

本社 神戸事務所 〒661-8567 兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号 TEL.06-6470-5004
東京本社 〒104-8307 東京都中央区京橋2丁目1番3号 TEL.03-3245-3161
北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3丁目1番地54 TEL.011-214-3140
東北支社 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目6番1号 TEL.022-267-8922
中部支社 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3丁目22番8号 TEL.052-564-5151
中四国支社 〒732-0057 広島市東区二葉の里3丁目5番7号 TEL.082-207-0537
九州支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号 TEL.092-473-2431
四国営業所 〒760-0050 高松市亀井町2番1号 TEL.087-836-3924

Cat.No.2700.STD.REX.

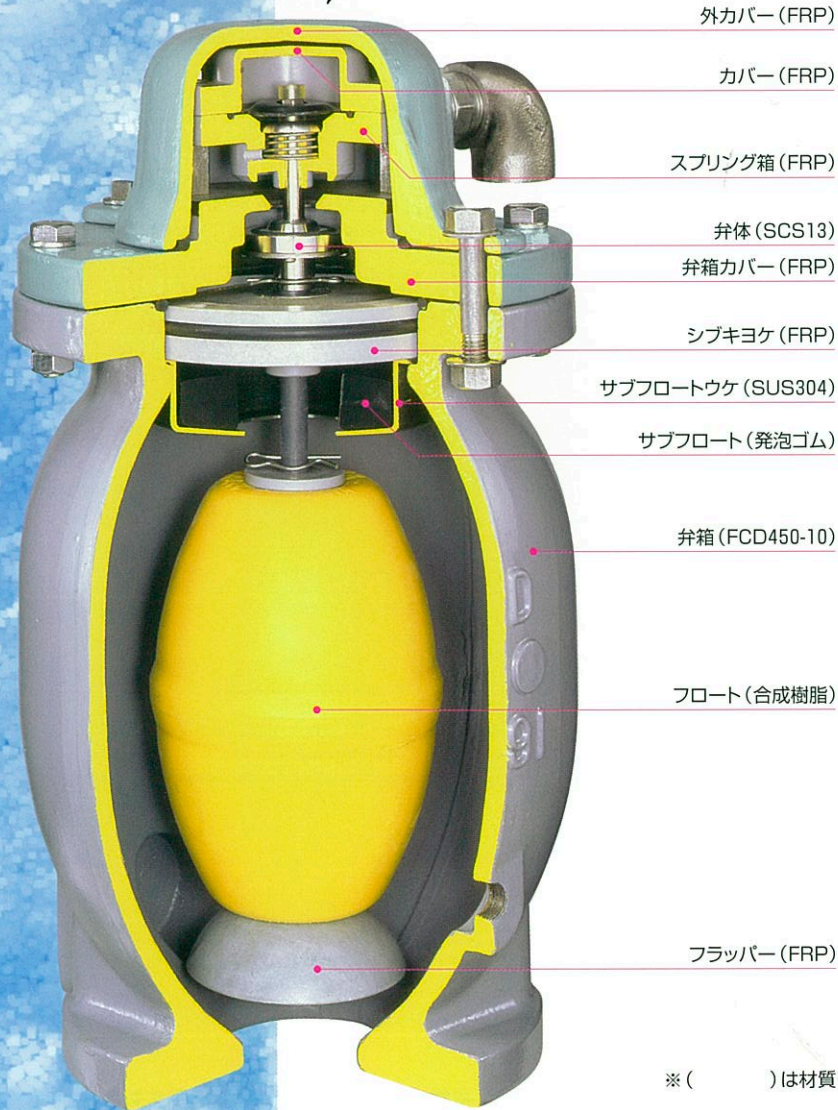
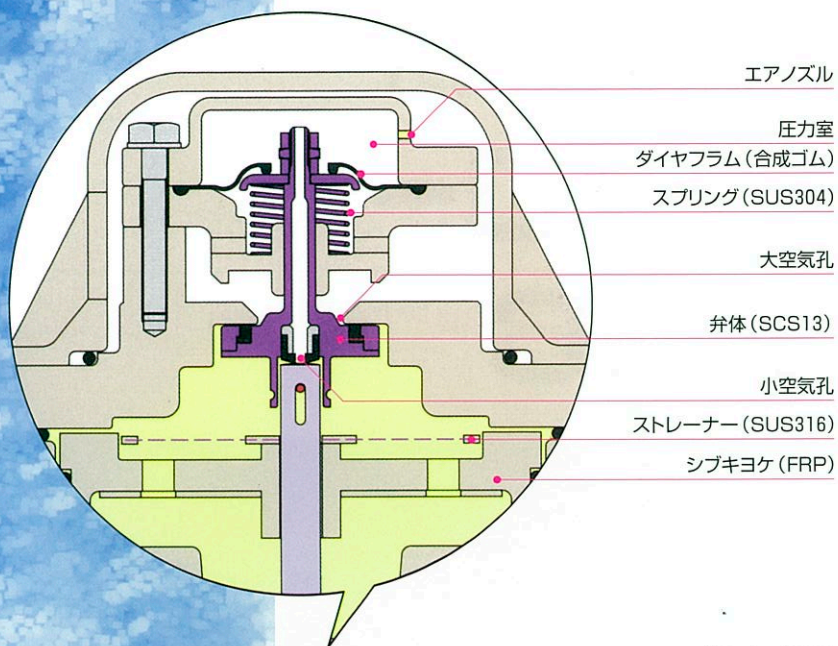
クボタ下水用空気弁 クリーンブロー RE-GC



ホームページアドレス <https://www.kubota.co.jp/product/valve/>

このカタログ内に掲載した写真は、製品の一例を示すものです。

汚泥の吹き出しが少なく、しかも多量排気、高性能の下水用空気弁“クリーンブロー”



- エアノズル
- 圧力室
- ダイヤフラム(合成ゴム)
- スプリング(SUS304)
- 大空気孔
- 弁体(SCS13)
- 小空気孔
- ストレーナー(SUS316)
- シブキヨケ(FRP)
- 外カバー(FRP)
- カバー(FRP)
- スプリング箱(FRP)
- 弁体(SCS13)
- 弁箱カバー(FRP)
- シブキヨケ(FRP)
- サブフロートウケ(SUS304)
- サブフロート(発泡ゴム)
- 弁箱(FCD450-10)
- フロート(合成樹脂)
- フラッパー(FRP)

特長

汚泥の吹き出しを抑制

水位の上昇とともに浮力でフロートが上昇、すばやく大空気孔、小空気孔を閉じ、空気弁上部に空気を閉じ込めます。この空気だまりが汚泥(汚水)の吹き出しを抑えます。

多量排気の圧力バランス方式タイプ

従来の空気弁は、圧力下で小空気孔のみの排気となるため、多量排気できません。クボタのクリーンブローは管内の圧力が高い場合でも、効率よく多量の排気が可能な独自の圧力バランス方式を採用しました。

汚泥が詰まりにくい空洞設計

フロートのまわりは十分なスキマをもたせ、弁箱内に侵入した汚泥が固着しにくい構造としています。また弁箱上部にサブフロートと目の細かい金網製ストレーナを配置し、止水部へのゴミ・泥の侵入を抑えます。

サビに強い塗装

弁箱内外面はエキポシ樹脂粉体塗装を標準としています。

コンパクトで取付自在

コンパクト設計です。3方切換の補修弁(マルチ³)と組合せれば、さまざまな取付方法が選択できます。(詳細はお問い合わせください。)

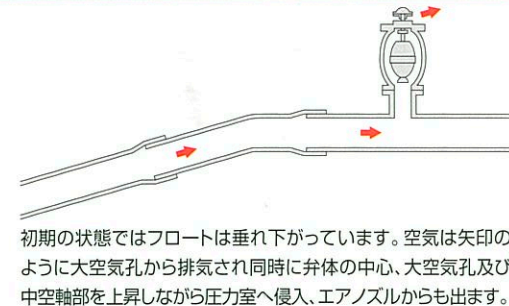
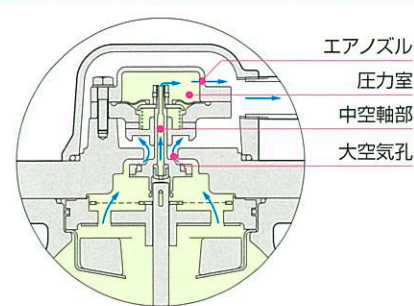
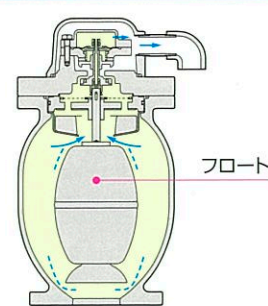
標準仕様

形 式	RE-GC
呼 び 径	75
流体の種類	汚泥・汚水
使用圧力	0.75MPa
塗 装	エポキシ樹脂粉体塗装
(大空気孔径)	(25mm相当)

※()は材質

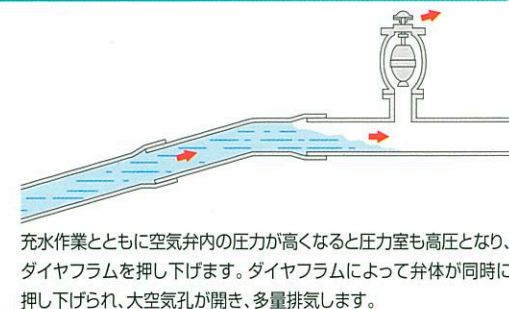
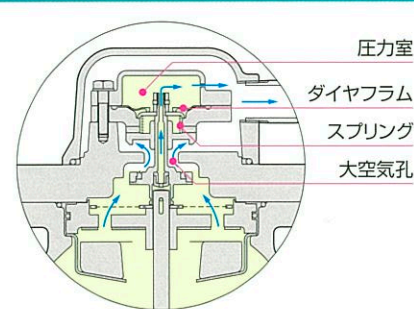
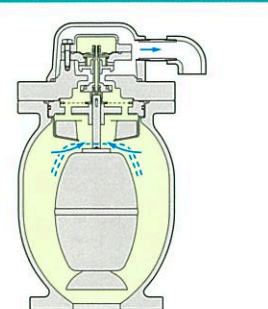
作動説明

1 初期排気



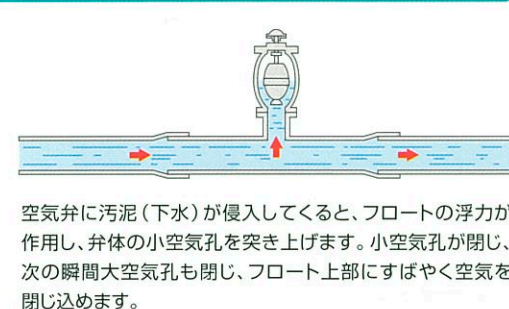
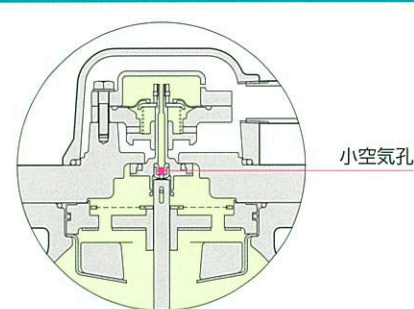
初期の状態ではフロートは垂れ下がっています。空気は矢印のように大空気孔から排気され同時に弁体の中心、大空気孔及び中空軸部を上昇しながら圧力室へ侵入、エアノズルからも出ます。

2 圧力下多量排気



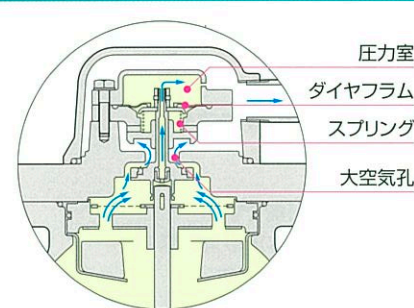
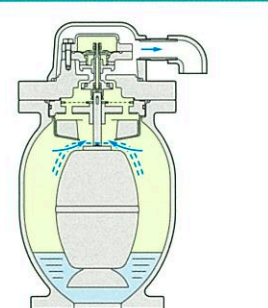
充水作業とともに空気弁内の圧力が高くなると圧力室も高圧となり、ダイヤフラムを押し下げます。ダイヤフラムによって弁体が同時に押し上げられ、大空気孔が開き、多量排気します。

3 充水閉止



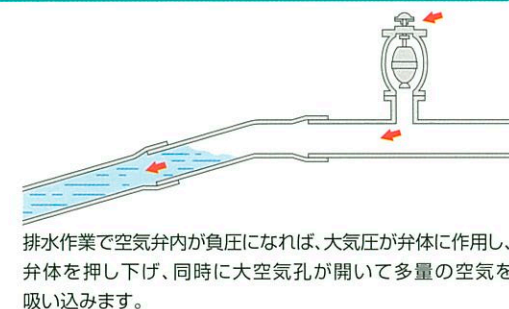
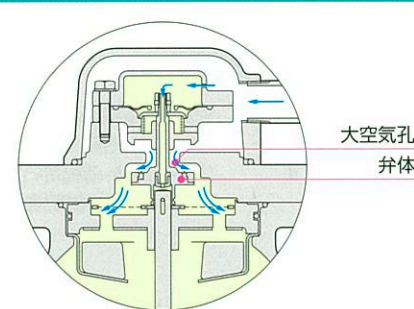
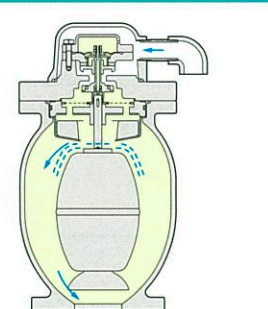
空気弁に汚泥(下水)が侵入してくると、フロートの浮力が作用し、弁体の小空気孔を突き上げます。小空気孔が閉じ、次の瞬間大空気孔も閉じ、フロート上部にすばやく空気を閉じ込めます。

4 圧力下排気



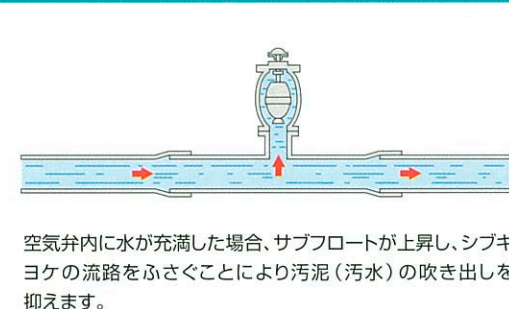
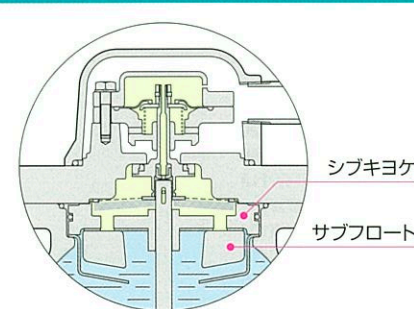
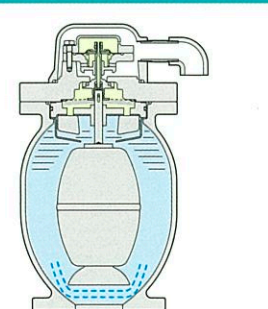
一旦全閉したあと、ひきつづき上昇してきた空気にも機敏に反応します。空気がたまって液面がさがるとフロートが下に垂れ、再び②の状態になり、圧力下排気します。

5 吸気



排水作業で空気弁内が負圧になれば、大気圧が弁体に作用し、弁体を押し下げ、同時に大空気孔が開いて多量の空気を吸い込みます。

6 外部漏れ防止



空気弁内に水が充満した場合、サブフロートが上昇し、シブキヨケの流路をふさぐことにより汚泥(汚水)の吹き出しを抑えます。